

大和の光

4月号

《発行所》

大和教団
仙台市青葉区錦町2-4-24
大和教団本庁
電話(代)022-261-2525番
振替 仙台02220-3-45512
発行人 大和教団 定価50円



神紋

八咫鏡と太陽をかたどったもので、国家の隆昌と世界の共存共栄を意味しております。

霊言
信仰はそのまま人生であり、仕事である。
信仰のない人生や仕事であってはならない。
(大和神典第四之二六九言)

万霊慰霊祭並水兎地藏祭 開祖様二十一年祭



この月も忙しい月となった。仕事をさせて頂けるということは本当に有り難いことである。身体状況は芳しくはないが、まだお務めができることに改めて感謝申し上げたい。
三月は特別講習会を三日間、大和婦神建立会議二回、特別神事十二座、十二日間と。また祭儀にては三月三日の「家庭神棚・屋敷神・御位神の年毎の大御祭」と「交通安全大祈願祭」を。三月十一日には東日本大震災十三年祭、三月二十四日は開祖様二十一年祭・春のみたままつり万霊水兎慰霊祭が和々しく齋行された。開祖様が神上がられてより早くも二十一年を経しかと。されど私は日々開祖様と交霊交感させて頂いているもので、いつもお側に居られ見守り、おみちびきを拝している故生きておられるを実感している。
顧みれば、開祖様が昭和四十年初期頃に一人の信者より願われて杜の都を望みやぎ霊園の此の地を五十坪ほど求められた。何故にこれ程の面積を求められたかは定かではないが、求められて程なくして、祖父敬一郎之命をお世話下さされた方の奥都城が設け立てられた。
次に、私の恩師の一人である東北学院榴ヶ岡高等学校の校長、理事であられた半澤義巳先生の奥都城を、今は亡き半澤令様との奇しき御縁に結ばれて建立させて頂いた。半澤義巳先生が帰幽なされたから、お墓を建てるべく何カ所もお寺を巡り、その他諸々探されていたという。そのような折りに私は、もしよければ母の求めていた墓地がみやぎ霊園というところにあります、ご覧にな

られますかとお話しすると二つ返事で見せてほしいとなり、ご案内させて頂きました。すると前に来た霊園という。そして、当地をご案内すると令様は、霊園の人にこの処を譲って頂けませんか尋ねたら、この土地は大和教団さんの所有地と云われたという。その同じ処に令様も非常に驚かれたことを今も鮮明に覚えている。開祖様が半澤義巳様との御霊縁を結ばれたものと、畏きみちびきを覚るものであった。令様は普通のお墓はコンクリートで固められ重い棹石が亡骸の上に乗っかるごとく息苦しくて嫌だと申された。その言葉を受けて私は古き文献を探し求めた。私に禊流神道を授け給いし故石田博昭先生よりの奥都城建立の秘資料も



頂き勉強させて頂いた。更に出雲大社に詣で、国造様の歴代の鎮座されます墓地も参拝させて頂いた。
そんな中、一番理想的な形状が、天之鳥船の形状を踏わした前方後円墳が理想型であるを覚りえた。資料の中にこれならよいかのヒントをも熟慮なし、一つの形状を創造す。御遺骸は土饅頭を作り、土の中に納め土をかぶせ、小さな御山を造り芝生を張るを。そして、その前に標塔棹石を建基、前方後円墳の形状にできるだけ近いものとさせて頂いた。標塔には故半澤家先祖代々之奥都城と刻字させて頂いた。故半澤義巳大人之命と側面に刻字もさせて頂いた。墓誌には故半澤義巳先生の人生一代の略歴を刻字させて頂きお称え申し

上げ、大國神社にて奥都城建立埋納祭を奉仕させて頂いた。多くの方々も参列された。令様も大変喜ばれておられた。勿論、祖霊殿特別御霊舎にも奉齋させて頂いた。が、その翌年一人息子さんが他界し、同奥都城に埋納。そして、令和四年に令様も身罷りて昨年、青森の弟さんの元より私がお引受け申し、埋納なされた。次に私の家内である教母の実家の墓を移させて頂いた。開祖様の奥都城は、この形状を大きくしたもので建造させて頂くこととなった。やはり奇麗なる御縁があった。私は「前石塔後円墳」とその形状を称えさせて頂いた。私は理想の形状であると自負をしている。
そして、円形状の三番目が、みやぎ霊園大和墓苑に建立する大和婦神墓である。「此の身此のまま神身となる」の信仰に相応しき終の棲家であり、此の身の再生復活をすべく甦りの奥都城墳墓でもある。五月の連休明けには完成の段取りで工事に入っている。二年余りの長い期間、みやぎ霊園庄子課長とは練りに練りての集大成である。竣工埋納祭は七月七日(日)と決定させて頂いた。故人、生前にての第一期の申込みを受付中である。埋納の方法は夫々に相応しき道を選んで頂きたい。
これまでの先祖の墓を大切になし、大和婦神墓にも分骨また形代にて埋納され、婦神の道にみちびかれることをお伝え申し上げたい。
今世の社会情勢は、墓はもういらぬ、葬儀も直葬とかで火葬のみが多くなっているという。子供等は自分を懇ろに祀ってくれるであろうか、代々の子孫はどうであろうかと不安を訴える人も多くおられる。
そのような時代だからこそ、宇宙真理の法に結ばれる大和婦神墓は必要なものと信念するものである。
令和六年三月二十九日
教主秀胤

開祖様二十一年祭 万霊慰霊祭 水児地藏祭



齋主嗣親様により慰霊の祈りが捧げられた

詞・水児地藏祭詞が祈り申し上げられた。

次に綾瓊神歌、大和婦神祝詞が奉誦され、齋主玉串奉奠、参列者代表玉串奉奠を修め、次に開祖様の御教えを拝聴、一同は力強い御教えを賜った。祝電披露の後、顧問の相澤光哉先生よりご挨拶を頂き、結びに嗣親様より御教話を頂いた。

祭場を地藏広場に移し、水児地藏舎広前にて、大和地藏尊拝詞を奉唱、祭員と信奉者の手により浄霊符慰霊祈念が執り行われた。此度の彼岸供養を受けた御霊等は、幽冥大神様として大和地藏尊の尊き導きと御救いを受け給ひて浄霊帰神がはかられた。

三月二十四日午前十時より大國神社祈禱殿において、開祖様二十一年祭、並びに万霊慰霊祭・水児地藏祭が嗣親様齋主のもと斎行された。
海川山野の種々の御饗物が宇豆高く献て奉られ、梵天、浄霊符、帰神串、御灯明、そして参列者による真心込められたお供え物にて祭場が整えられた。先ず、霊簿が納められた清明美装な安鎮御箱を祭壇中央に奉安申し上げた。修祓之儀の後、参列者一人ひとりの手により御霊達への御明りが御神前に献て奉られ、祭場が御霊火の御光に包まれた。
引き続き、齋主嗣親様は開祖様二十一年祭詞を奏上、次に万霊慰霊祭



参列者により御霊達へ真心の献灯が捧げられた

嗣親様御教話



齋主嗣親様より御教話を賜る



本教顧問相澤光哉先生より御挨拶を頂く

万霊慰霊の御霊まつり、そして水児さんの御霊まつりを、開祖様の二十一年の式年祭と併せて皆様と共に祈りお仕えをさせて頂きました。有難うございました。
開祖様の御教えを賜り、改めて日本人としての勇氣と誇りというものを、日本国旗の偉大な力と尊さを教わりました。この宇宙、萬民を照らす。

その太陽の大きな力を表した日本民族の象徴である国旗であるということ。日本の本民族として、やまと魂、日本の心、魂というものをしっかりとつくっていかねばならないと自覚させて頂きました。
相澤先生、ご参列を頂きともに祈り頂いて有難うございました。
相澤先生も日々、やまと魂、大和の心、日本の心をと、ことあるごとに皆さんにお話しを頂いておられます。やまと魂をしっかりと受け継いで世の為、人の為になるように、その心、魂を使わせて頂きたいと思えます。
大前の開祖様の御尊影の直ぐ真下に霊簿を納めた安鎮御箱がございます。その御箱の中に、皆さんのご先祖、関縁の御霊、水児の霊簿が納められております。そちらを依代として、本日は御霊まつりをさせて頂きました。
開祖様は常々「供物あがらぬ供養なし」と申されました。大前には、色々な神饌、お菓子や飲物、ミルク等がお供えされております。この様な形のあるものを、真心込めてお捧げすることによって、それらの物が霊と化します。そして、見えない世界に届けられ御霊達が受け取って下さるのです。
神様や御霊は見えない世界に、私たちが見える世界で形となって存在しております。形あるものに真心と思いを添えれば、見えない世界に届くのです。物を供えても、真心や思いが添えられていなければ届くことはできません。それはただの物ではないからです。
私たちがやがて幽世に、見えない世界に参ります。その時に何を持って行けるかです。誰しもあの世へと行きますが、唯一持つて行けるものは思い、心です。どういう思いや心でしょうか。それは、感謝の心です。

そして世の為人の為に貢献してきた自分自身の姿、心です。
その逆もありますね。不平や不満、まだ死にたくなかったという未練を残し、その思いをもって行く人もいるかもしれません。それは哀れです。ですから信仰を通して感謝という心をつくりながら、精進して人生を送っていくことが大切な訳です。今日この日からは非に行つて下さい。
今日、世の為人の為に貢献してきた御霊様に、全てのものに感謝するという供養、慰霊の日です。ご先祖様だけではありません。全てに感謝するというのが大和の信仰です。
万物一切に感謝です。万物一切を生かす、それが大和の心、大和教団の教えですと開祖様が教えて下さいました。
鏡に向かつて自分自身に笑顔をつくっていますか。私は段々と出来るようになってきました。その笑顔を家族や職場で表わすのです。
この地球上のあちこちで殺し合いが行われています。皆で世界平和と国民幸福と毎日祈るのです。それが大和の信仰者です。大和を信じている皆さんは毎朝必ず祈ることです。世界平和と国民幸福、早く戦争を和平解決して下さい、皆が幸せにと毎日祈るのです。大神様も開祖様もそれを望んでおられます。
二十一年前、私は柩の中の開祖様にお別れを申し上げました。開祖様はまるで少女のように肌が艶々でした。安らかな素晴らしい御顔でおられました。開祖様は、生きていた時は笑顔で生きなさい。あの世に行く時は若々しく瑞々しいお顔で大神様の元へ帰ることを、身を以て教えて下さったのです。
あの世に行く時は素晴らしい思いと感謝を持って、笑顔で往けるようお祈り申します。今日のご苦勞様でございました。



地藏広場小川にて浄霊符慰霊祈念をお仕えする参列者

今日、世の為人の為に貢献してきた御霊様に、全てのものに感謝するという供養、慰霊の日です。ご先祖様だけではありません。全てに感謝するというのが大和の信仰です。
万物一切に感謝です。万物一切を生かす、それが大和の心、大和教団の教えですと開祖様が教えて下さいました。
鏡に向かつて自分自身に笑顔をつくっていますか。私は段々と出来るようになってきました。その笑顔を家族や職場で表わすのです。
この地球上のあちこちで殺し合いが行われています。皆で世界平和と国民幸福と毎日祈るのです。それが大和の信仰者です。大和を信じている皆さんは毎朝必ず祈ることです。世界平和と国民幸福、早く戦争を和平解決して下さい、皆が幸せにと毎日祈るのです。大神様も開祖様もそれを望んでおられます。
二十一年前、私は柩の中の開祖様にお別れを申し上げました。開祖様はまるで少女のように肌が艶々でした。安らかな素晴らしい御顔でおられました。開祖様は、生きていた時は笑顔で生きなさい。あの世に行く時は若々しく瑞々しいお顔で大神様の元へ帰ることを、身を以て教えて下さったのです。
あの世に行く時は素晴らしい思いと感謝を持って、笑顔で往けるようお祈り申します。今日のご苦勞様でございました。



<https://taiwakiodan.org/top/>

大和教団ホームページにおいて、教主様のお言葉(ブログ)が日々更新されております。どうぞ、ご覧ください。

立教八十年に向けて大和の御教えを天地に満たしましょう

大和の信仰で笑顔のこぼれるような家庭を築きましょう

東日本大震災十三周年 犠牲者追悼慰霊祭並復興祈念祭



斎主嗣親様のもと祭儀は厳粛に斎行された

嗣親様御教話

今日は三月十一日、私共大和教団において一番大切な月の祭りごとである親神感謝祭、祖霊万霊祭の日です。一日、十一日、二十五日、二十八日と御座います。その中でも十一日という日は開祖様が神様から神祭りを為せと告げられた日であり、十一日と二十五日の開祖祭は大和教団の教職員と信者さんにとつとも大切な月の御祭りです。是非参列なし、祈り仕えて頂きたいと願います。一日は月の始めの尊いお祭り、二十五日は開祖様の月命日祭、二十八日は大和教団の修行の日です。皆さんの心と体を修練、修養する日で、六根修養会と称えており

未曾有の被害をもたらした東日本大震災より十三年の時を経た三月十一日午前十時三十分、大和神光殿において、斎主嗣親様のもと東日本大震災十三周年追悼慰霊祭並復興祈念祭が執行された。大前には海川山野の神饌が献供され、斎場に犠牲となられた御霊をお迎え申し上げ、幽冥主宰大神様の誘いとお救いを頂きて慰霊と復興への祈りが捧げられた。斎主玉串拝礼の後、参列者それぞれが真心を込めて御霊の御冥福と復興を祈り、玉串を奉奠申し上げた。祭儀後嗣親様による大和の庭が開かれ、これよりも一日として欠かすことなく、被災地の皆様の復旧と復興、福島第一原発事故の一日も速けき終息を乞い祈むことを述べられた。



斎主嗣親様より御教話を賜る

ます。どうぞお参りをして参列されることです。東日本大震災から十三年目を迎えてきて頂きました。悩み苦しんでいる方々、思い出すのも辛く、話題にもしたくない方もいるでしょう。しっかりと思い出して語っていかねばならないという方もいると思います。様々な心の様子がありません。私たちは被災者の一人として、今尚苦しんでいる人たちのために毎日祈らせて頂いております。宗教者として祈り、信仰者として祈るのです。祈りなき信仰はありません。本教も十三年間、祈らない日はありません。私も東日本大震災の復旧復興を一日も欠かさずに祈っております。完全復興するその日まで、そして御霊たちが本当に安らかに幽世に鎮まるまで祈り続けるのです。本年は元日に能登半島大地震が発生しました。目の前で救えなかった家族もおられます。様々な報道を目にして、皆さんは何を思い、そして何を祈るのか、それは先ず祈ることです。祈らせて頂くのです。それが人であり、神の子であり、大和の信仰者なのです。祈らずして信仰はありません。祈りは必ずや通じ、届きます。祈られた人々に必ずや力となつて神様は動いて下さるとそう信じて私たちは祈ることです。対岸の火事とすることなく、日々祈つて下さい。世界の戦争紛争で子供も女性も高齢者も身体の悪い方々も本当に苦しんでおります。戦争紛争は何の得にもならず、何一つ良いことは無いのです。人を殺し、物を壊す。そういうことが今、現実にはこの地球上で起きております。この大國主大神様の大切な国魂の中で良い神様、悪い神様が闘つてい

るわけですね。良い御霊、悪い御霊が動いています。私達が思っている以上に今は天変地異、気候変動と地球はおかしくなっています。今も寒暖差が激しいから皆さんも気を付けて下さい。この地球で生かされているという感謝の心をしっかりと祈りに表して、全てのものに感謝して、笑顔の世界を築かねばなりません。本日は東日本大震災から十三年を経て、様々な人との別れがあつて、皆さんはどんな思いかなと思いがながら供養をさせて頂きました。被災して大國神社で合宿をいたしました。福島で原発事故が起き、バス二台で信者さん達を迎えに行くのに燃料がないとなつて、真つ先に兵庫県の円心教さん、深田充啓教主様はトラックやワゴン車で簡易のお風呂や各種燃料等の支援物資を届けて下さいました。本当に有難いことでした。やがて全国から色々な方々が来て下さり助けられました。能登半島は今が大変です。だから祈るのです。現地では何かをすること、祈るのです。現地で何かをすること、祈るのです。祈るのです。十三年よく頑張つて来ました。自衛隊、消防、警察、行政、医療従事者等、皆さん本当に頑張つて下さいました。今も能登で頑張つてくれております。私たちはどんなことがあつても立ち上がれるぞ、ということを経験しているからこそ、今も苦しんでいる方々のために、力になつてあげられるように、思いをしっかりと持つて頂きたいと願います。本日の御教話として、第六之章〇七二言を奉読させて頂きます。ただ拝むだけでは、駄目である。いまこそ、新しい一歩を踏み出す時である。新しい社会を、つくっていく時で

ある。天変地異、人の心、社会、考えられないような速さの動きを感じながら、これから生きていく若い人たちが、子供たち、本当に心をつくつていかねばなりません。精神が病んで、体が病んで、社会も政治も病んで、全てが病んでおります。諸々な姿、形が現れ始めてきました。世の中がおかしい、その根っこは何でしょうか。己の心をつくること、これ信仰なり、心と魂、つくりの時です。物やお金、欲望に苛まれていては満足など出来ません。心と魂がしっかりとあれば幸せに生きていきます、というのが開祖様の一番の教えです。今こそ、大和の心、日本の心を世の中に表してつなげていかなければ、とんでもない社会になつていくのではと思ひます。今日はご苦勞様でございました。

Table with 2 columns: Date and Event Name. Includes 5月行事予定表 and 6月行事予定表.

Advertisement for '教主様傘寿祝賀' (Celebration of the Founder's 50th Birthday) on June 9th at 10:00 AM at Daiokojingu Shrine.

神號稱位並神敷屋柵神 祭念祈感謝

三月三日午前十時より大國神社祈禱殿において、齋主嗣親様のもと神柵屋敷神感謝祈念祭、並びに御位稱號神感謝祈念祭が斎行された。

本祭儀は信奉者各位のご家庭に奉齋されし神々様、屋敷に祀られし明神様・井戸神様・釜神様・水神様・龍神様、諸仏等を大國神社の大前に神招ぎ迎え奉りて、年毎に神恩感謝の大御祭を斎行申し上げる感謝の大御祭りです。



神々へ神恩感謝の祝詞が奏上された

先ず、修祓之儀、次に降神がなされ、感謝の祝詞が厳かに奏上され、綾瓊神歌にて御霊神を重ねてお称え申し上げた。齋主玉串拝礼、参列者玉串拝礼を以って祭儀は修められた。

交通安全祈願祭

三月三日、神柵屋敷神感謝祈念祭並びに御位稱號神感謝祈念祭に引き続き、午前十一時より齋主熊川知長祭儀部次長のもと、交通事故の災い無く尊い生命が護られますことをご祈念申し上げる、交通安全祈願祭が御本殿を祭場に斎行された。車の安全、並びに身の安全がご祈念された。

昨今、高齢者による誤操作等にて歩行者が巻き込まれる痛ましい事故も頻発しており、幾ら注意を払っていても何時、何が起るかわからない世の中にあつて、神様よりの更なる御力を乞ひ願うものである。儀式後、御本殿前に整然と並べられた車両を一台一台が祓い清められ、大神様の御加護を賜わり、一年間の交通安全を祈念申し上げた。



御本宮廣前にて車輛が一斉に祓い清められた



御本宮にて教信奉者皆様の交通安全が祈念された

神光龍神祭 六十七年祭

三月五日午前十時三十分より大和神光殿において、神光龍神祭六十七年祭が齋主畠山真由美教務部長により斎行された。修祓の後、綾瓊神歌にて神光龍神をお称え申し上げ、祝詞奏上、大祓詞奉誦、金幣拝戴、玉串拝礼をもつて感謝の御祭は修められた。



大和神光殿にて神光龍神様への感謝の祈念がなされた

儀式後、畠山真由美教務部長より、「本日は神光龍神祭六十七年祭を皆様と共に感謝の祈りを捧げさせて頂きました。皆様は、毎月の神光龍神祭に参列されていらつしやる心篤い方々です。今日が如何に大事な日であるかを理解されて参列されていらつしやることと思ひます。」

本日は神光龍神様が「我が愛子等に幽頭の永遠の安らぎと幸栄のためには神光龍神様が」との御神意を受け賜ひてこの土地を守り開祖様にお授け下されたからこそ、大國主大神様がお鎮まりになり、大和教団が生まれました。本日が大和教団にとつて、如何に大切な日か、改めてご理解頂きたいと存じます。

神光龍神様は、毎月の御祭りにこうして、神光龍神様の元を足運び、皆さんが家族や知人友人を導いて、共に信仰をさせて頂く、共に大和の幸せの道を歩んでいくことが神様の一番のよろこびなのです。神様に大に小に助けて頂いたり、お救ひして頂いたりしたことの、その感謝の思いを一生忘れずに、自分の心の大切な御守として、尚一層神様を信じて、奉仕させて頂くのが私達信仰者です。

神は人の敬いを以つて威を増す。神様を信じて敬つて、人を導く奉仕を実践していけば、ますます大神様の大きな御神徳を賜れるのです。本日は誠に御祭りがおこなわれます。このお話しが述べられ、引き続き和やかに直会が行われた。

幽頭界の永遠の救いと繁栄を願いて 大和帰神墓合祀のご案内

開祖様は昭和四十年代頃に一人のご信者のご縁にて仙台市郷六のみやぎ霊園に永代使用権を求めておられました。東北自動車道の宮城インターチェンジに程近き杜の都を望む緑に抱かれた静閑の地として高く評価されし霊園に五十坪程の墓地を有されております。此度大神様よりの「我が愛子等に幽頭の永遠の安らぎと幸栄のために御霊等を合せ祀る墳墓を設けるがよし」との大御心を拝し奉りかねて大神様が神伝なされし「前方石塔後円墳」の墳墓を終の棲家として左記の要項にて建立施工させて頂くこととなりました。

教信奉者皆様の先祖故人前世の御霊等をお祀りなされ天界地底踏破卓立の神身となり幽身となりて幽頭の永遠の幸栄を御神授賜りますようご案内申し上げます。

大和帰神墓建立合祀要項

一場所 みやぎ霊園〔西第七区〕
大和墓苑
仙台市青葉区郷六字大森二-1

一墳墓の形状 前方石塔後円墳

墳墓の理想は 前方後円墳の形状と伝えられておりさらにその象は天之鳥船とも秘されております。本教墳墓の形状は開祖神大國主大神が開祖奥都城建立にあたり神伝されし奇崑なる象となっております。

一竣功祭並埋納祭 令和六年七月七日(日)

一埋納方

全ての御遺骨分骨にての埋納 また御遺骨に代りての御霊霊をもつて埋納させて頂きます

詳しくは本部または担当教師にお尋ね下さい。

報 告

元会津若松教会役員 渡部久子様
本教団の会津若松教会役員として、永年に亘り善導救済にご尽力をなされました渡部久子様が、三月四日、九十二歳の生涯をもって帰幽なされました。謹んで、ご生前のご功績を偲び、御霊の安らかならんことをお祈り申し上げます。